第４回Ｊヴィレッジ復興プロジェクト委員会議事録

日　時　平成 28 年 2 月 19 日（月）15 時～15 時 45 分
場　所　杉妻会館　4 階　牡丹の間 B
出席者　別紙出席者名簿のとおり
結　果

１　委員長あいさつ

・今日は、お忙しい中お集まりいただき感謝。
・第 3 回プロジェクト委員会を昨年１月に開催し、「新生Ｊヴィレッジ」復興・再整備計画を策定した。今年度に入り、基本設計を進めてきた。
・非常に色々と細かい調整などもあったが、ここにいる人はそれぞれがプレーヤーであり、原発事故の収束拠点となったＪヴィレッジの再開には、単なる原型復旧ではなく、付加価値を持ったより良い施設にしようという思いを共有して進めてきていただいた。
・今日は、計画の概要として最終段階に来ており、最終的な意見を賜りたい。

２　議事

（１）「新生Ｊヴィレッジ」復興・再整備計画（中間報告）について

○事務局より、資料に基づき説明。
①Ｊヴィレッジ復興再整備の全体像
②全天候型サッカー練習場及び新宿泊棟の概要
③整備スケジュール

○意見交換

（小野委員）
・H30 年夏に大部分が再開できることとなり、うれしく思っている。
・Ｊヴィレッジは、これまでも日本サッカーの発展を下支えしてきたが、これからも日本サッカーの発展に寄与する施設となることを確信している。
・これまでＪヴィレッジで開催してきた全日本少年サッカー大会のような全国大会にＪヴィレッジに戻ってきてもらい、にぎわいを取り戻したい。
・H30 夏に再開するに当たり、サッカーの全国大会は通常１年前からスケジューリングするので、H30 年度初めには予約受付を開始しなければならないと思っている。
・2019 年には日本でラグビーワールドカップが開催される。これまでＪヴィレッジではサッカーをメインに行ってきたが、再開後はラグビーの誘致も行いたい。2018 夏からラグビーの代表チームにも利用いただけるよう、積極的にアプローチし、活用を図りたい。

（石崎委員）

・事務局の御苦労に感謝する。

・廃炉の前線基地、福島復興本社として使用させていただいている。

・復興本社は、今年 3 月末までにＪヴィレッジを出て、富岡町の浜通り電力所に50～80 名が移転する。

・それにより、Ｊヴィレッジの返還に向けた作業を加速し、スケジュール通り進められるように、復興本社を中心に努力してまいりたい。

（上田委員）

・基本設計の会議にも出席させていただいたが、関係者の並々ならぬ熱意に敬意を表したい。

・新生Ｊヴィレッジは、世界のトップクラスの施設となることを確信している。

・日本サッカー協会では、12 月の理事会で、Ｊヴィレッジを 2020 年東京五輪の強化拠点として決めた。いつ、どれぐらいの合宿を行うかは決まっていないが、必ず男女代表がＪヴィレッジで合宿する。

・少年の作文が紹介されているが、子どもたちも思い切りプレーできる環境を提供し、トップからグラスルーツまで利用いただけるようなＪヴィレッジにしていきたい。

（大和田委員）

・楢葉町は昨年 9 月に避難指示が解除となり、帰町が始まっているが、なかなか進んでいない状況。

・町にとってＪヴィレッジの再開は、地域の復興を牽引するものと期待している。

・町としても全面的な協力体制をとっていきたい。

（菅野委員）

・2020 年東京五輪のサッカー代表合宿がＪヴィレッジで行われることは、広野町にとって喜びであり、子どもたちに大きな夢を与えること。

・2019 年ラグビーワールドカップも、町も一緒に、一体となり誘致に取り組みたい。

・また、ふたば未来学園高と連携した取り組みを考えていきたい。

（佐々木委員）

・一部再開エリアを広げた。しっかり準備してスケジュール通り仕事を進めていきたい。

○議題について、各委員より異議なく了承された。

（２）Ｊヴィレッジ復興・再整備事業の進め方について

○事務局より、資料に基づき説明。

①全天候型サッカー練習場及び新宿泊棟の発注方法並びに公募型プロポーザル開

始予定について

②Ｊヴィレッジ復興サポーターについて

○意見交換

（小野委員）

・ハードの面が充実し、我々もうれしい。運営会社としてはソフト面の充実にしっかり取り組みたい。

・再整備の財源をしっかり押さえる必要があり、企業や個人の皆さんから寄付を募るのは有効と考える。Ｊヴィレッジに思い入れを持っていただいているサッカーファンは全国にたくさんいらっしゃる。皆の力でＪヴィレッジを復活させる取組は、ハード以上の意味があると思う。

・また、サッカー界では toto というものをやっているが、Ｊヴィレッジは、代表合宿や大会のみならず、審判育成や指導者育成を通じて日本サッカー界の下支え、底上げを担ってきた。そういう意味で、toto の支援をお願いしたい。

（近藤委員長）

・最近こけら落としをした吹田スタジアムも、寄付を募り、プレートを設置して感謝の気持ちを示すような取組を行い、ソフト的な意味も持たせている。そういったものをイメージして進めていきたい。

（佐々木委員）

・Ｊヴィレッジの小さなサポーターを紹介したい。

・福島市野田小学校の八重樫君がＪヴィレッジの復興を作文に書いてくれた。担当職員が記事を大事にとっておいたのだが、それを知ってからサッカーボールと代表ユニフォームを持って行ったところ、クラスで応援メッセージとカレンダーを作って、偶然今日先生が届けてくれた。

・Ｊヴィレッジを応援してくれる小さなサポーターがいることに感激したが、こうした小さなサポーターにも応援してもらい、スポーツ文化を広げていきたい。

・また、改めてスケジュール通り進められるよう肝に銘じたい。

○議題について、各委員より異議なく了承された。

○近藤委員長あいさつ

・新生Ｊヴィレッジ復興の道筋が見えてきたが、まだ再開に向けてスタートしたばかりであり、様々な課題がある。

・引き続き、委員の皆様と一緒に努力していきたいと思うので、よろしくお願いしたい。

３　閉会

４　ぶら下がりにおけるコメント

（近藤委員長）

・難しい調整もあったが、Ｊヴィレッジ復興にかかわる全員が、復興のシンボルとして復活させるという思いを共有して当たることができた。実現に向けてスケジュールはタイトだが進めていきたい。

（上田委員）

・Ｊヴィレッジは、日本サッカーの発展を支えてきた大切な場所。合宿にも使いやすい。

・Ｊヴィレッジの再開が福島の復興に果たす役割も大きい。